

○石井 由香

高野倉 睦子

長野 智子

(昭和学院短大)

<目 的>

「下着は、人類の歴史と共存し進歩する」といわれ現在では素材および形など多種多様の下着がみられる。下着に関しての研究は女性や成人男性を対象としたものが多いが、より若い年代層の男子高校生を対象とした研究は少ない。本研究では、下着に関する着用意識と実態について東京、山形、福島、静岡の4地域の男子高校生を対象に調査し、男子高校生の下着の着用特徴を明らかにする。

<調査方法>

男子高校生、合計546名（東京197名、山形149名、福島100名、静岡100名）を対象とし、無記名式の質問紙による集合調査法により1996年10月および1997年10月にアンケート調査を実施した。内容は、下着の着用意識に関する22項目、下着の着衣実態に関する10項目、服装の規範意識に関する19項目である。

<結 果>

①高校生が共通して所持数の多いものは上衣ではTシャツを含む半袖、および袖無し、下衣ではトランクスであった。特に静岡、福島ではトランクスの所持率が80%以上であった。②以前は着用したが現在着用しない下着の上衣はランニング、下衣ではブリーフであり、その理由としては、上衣、下衣ともに「着心地が悪い」「周囲の人が着ていないから」などが多かった。③下着の着用意識について統計的検定をした結果、22項目中「素材のよい高価な下着を楽しみたい」など7項目について危険率1%で有意性が認められた。